

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H04444

研究課題名（和文）AYA世代にある小児がんサバイバーの移行期ケアを支える看護師育成プログラムの開発

研究課題名（英文）Development program for nurses supporting transitional care of childhood cancer survivors in the AYA generation

研究代表者

林 直子（HAYASHI, Naoko）

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：30327978

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はAYA世代に移行した小児がんサバイバー（CCS）のケアの現状を調査すること、また成人診療科の看護師を対象に、CCSケアの専門的知識を教授する支援ガイドを開発し評価することを目的とした。

文献レビュー、医療者へのインタビュー調査、既存のガイドライン等をもとに、CCSの長期支援のための看護師向け教材（支援ガイド）の試案を作成した。がん診療連携拠点病院に勤務する看護師を対象に、CCSケアの実態調査と教材評価を行った。165名から回答が得られ、CCSケア経験のある看護師は35.2%、内容は小児がん治療に起因するケアが79.3%だった。教材については内容、活用可能性いずれも肯定的な評価を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小児がんサバイバー（CCS）の長期フォローアップと移行期支援について、本邦ではこれまで主として小児診療科の医師、看護師が中心となって進められてきた。しかし本研究で、成人診療科でCCSケアに携わる看護師を対象とした教材（支援ガイド）を作成したこと、また成人診療科でのCCSの支援の実態を本邦で初めて調査したことで、成人診療科の医療者のケア場面での困難や学習ニーズが明らかとなったことは学術的意義があると考えられる。また開発した教材が看護支援の一助となる可能性が示唆されたことは、社会的意義がある。今後は本支援ガイドの活用を検討すること、また血液がん以外のCCSに関するガイドを検討することが課題である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to investigate the current status of care for childhood cancer survivors (CCS) transitioning into the AYA generation, and to develop and evaluate a support guide for nurses in adult medicine departments to teach their expertise in CCS care. Based on a literature review, interviews with health care providers, and existing guidelines, a draft of educational materials (support guide) for nurses for long-term support of CCS was developed. Nurses working in cancer treatment base hospitals were surveyed on their actual care for CCS and educational materials were evaluated. 165 nurses responded (response rate: 17.7%), 35.2% of them had experience in caring for CCS, and 79.3% of the contents were care arising from pediatric cancer treatment. The educational materials received positive evaluations in terms of both content and applicability.

研究分野：がん看護

キーワード：がん看護 AYA世代 小児がんサバイバー 移行期支援 教育プログラム

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究に関連する国内、国外の研究動向及び位置づけ

近年がん医療は飛躍的に進歩し、小児がんの5年生存率は8割を超え(Siegel, 2013)、小児がんは不治の病から完治あるいは慢性長期的経過を辿る疾患へと様相が変化している。これは小児期にがん治療を受けた経験のある、小児がんサバイバー(childhood cancer survivor: CCS 以下 CCS)の増加をも意味する。現在わが国では小児期にがん治療を受けた人の割合が、20-39歳では700人に1人にのぼるとされ、がんの診断から5年以上経過してから発生した、もしくは診断から5年以上継続している疾患や治療に関連する合併症(晩期障害)に対する治療を含めた長期フォローアップ体制の確立が必要とされている(鹿島田, 2015)。

CCSが呈する晩期障害の特徴として、ほぼすべての臓器に障害が生じること、自覚症状に乏しいこと、治療後年数が経つとともに発症率が増え続けることが指摘されている(Stevens, 1998、Diller, 2009)。中でも、がんの治療後に生じる性腺機能障害は現在広く知られている。海外のCCSを対象とした大規模コホート調査(CCS Study)は、晩期障害が年々増加すること(Oeffinger, 2006)、妊娠率の低下や早期閉経の頻度が高いことを示し(Green, 2009)、わが国でもCCSにおいて性腺機能低下症の占める割合が高いことが示されている(Miyoshi, 2008, 2013)。成人女性がん患者の治療後の性腺機能障害については、がん治療の方針決定と併せて妊孕性温存に関する患者の意向を確認し妊孕性温存治療を行うなど、本邦でも医療者による様々な意思決定支援が近年行われつつある(林, 2016)。一方CCSにおいては、低年齢発症であれば身体機能の成熟が十分ではなく、また認知発達の限界から病名告知や病状説明内容が限られ、原疾患や晩期障害の説明が十分とは言えない現状がある(三善, 2015)。そのため、思春期まで性腺機能異常に気付かない場合や、通院が途絶え成人後パートナーを得て初めて妊孕性低下という問題に直面することから、思春期・若年成人(Adolescents and Young Adult: AYA 以下 AYA)世代、すなわち15~39歳の生殖年齢に至るCCSのリプロダクティブヘルスを含む長期フォローアップは喫緊の課題である。

成人期を迎えたCCSへの医療は、2000年頃より「移行医療」として注目され、思春期・若年成人期患者が成人期医療にシームレスに移行することが重視されるようになった。海外では移行支援を「医療が適切に継続し患者が社会的な自立を果たすこと」をゴールとしたライフロング医療の一部と捉えられている。一方、わが国の「移行支援」は「成人期医療に移ること」をゴールとすることが多く(小林, 2016)、「見捨てられた」などの患者・家族の不安(五十嵐, 2011)や、成人期医療への移行後の受診中断、さらには原疾患に関連した合併症の重症化、生活習慣病のセルフマネジメント不足を招き、CCSの学校生活困難、就労困難、QOL低下、自立困難、医療費増加という悪循環をもたらすと考えられている。乳幼児期、あるいは学童期にがんを発症して以降、小児専門の診療科で継続的に治療、フォローアップを受けるCCSは、特定の医療者との関係性の中で成長、発達し、成人診療科への移行が難しい現状がある。一方晩期障害の中でもリプロダクティブヘルスに関する問題は、患者のQOLにかかわる重要な事項であるにもかかわらず小児診療科でのフォローや生殖医療診療科との連携が十分とは言えない状況がある。

(2)本研究の着想に至った経緯

研究者らは、これまで女性乳がん患者のリプロダクティブヘルスに関する意思決定を支える看護に関する研究を行い、患者・家族の意思決定支援には医師、看護師を含む多職種、多診療科間の連携が必須であること、またがん診療、生殖医療に関する最新の専門的知識ががん医療に携わる看護者に求められることを明らかにしてきた(林, 2015, 2016、高橋 2016)。生殖年齢に至ったCCSの中には妊孕性に関わる晩期障害を抱える患者が存在することから、心身の成長・発達途上の小児期にがんを発症した患者に対して、成人期への移行医療とライフロングサポートについて、成人看護の視座から小児医療、小児看護を専門とする医療職と協働した支援体制の構築に寄与する資材の開発が必要だと考えた。

2. 研究の目的

本研究では、AYA世代に移行した小児がんサバイバー(CCS)のケアの現状を調査すること、また成人診療科に移行したCCSのケアに携わる看護師を対象に、リプロダクティブヘルスに関する専門的知識を中心とした臨床でのケアに必要な知識・技術を教授することを目的とした教育プログラムを開発し評価することを目的とした。

3. 研究の方法

(1)AYA世代にあるCCSの長期フォローアップと移行期支援に関する文献レビュー

小児がんサバイバー(CCS)が呈する、治療による晩期障害と長期フォローアップ(LTFU)、ならびに移行期ケアに関する研究の動向を把握することを目的とし、AYA世代、小児がんサバイバー、晩期障害、性腺機能障害、移行期支援、長期フォローアップ、サバイバーシップケアをキーワードに、Medline、CINAHL、PsycINFOを用いて2008年以降の論文を網羅的に検索した。結果はアブストラクトテーブルにまとめ、治療内容と経過、晩期障害の内容と発症率、CCSの成長、

発達の特徴、移行期支援に関する患者・家族・医療者のニーズ、ケアモデルの構造、移行期支援内容、教育的介入を行っているものについては介入の具体的内容について項目ごとに分析し、育成プログラムに組み込む内容を抽出することとした。

(2) CCS の移行期ケアにおけるニーズ調査

AYA 世代にある CCS 移行期ケアに携わっている医療者の臨床経験を明らかにし、教育プログラム開発の基礎資料とすることを目的にインタビュー調査を行った。対象は、専門職として3年以上の経験を有し、AYA 世代にある CCS の移行期ケアに携わった経験が1年以上ある医師及び看護師とした。インタビューは移行期ケアで内分泌に関連した治療、がんサバイバーシップにおける内分泌機能の重要性に対する考え、CCS 移行期ケアとしての内分泌機能に関連した治療・ケアの説明内容、今後の課題等について半構造化面接で尋ねた。データは質的帰納的に分析し、移行支援に関する認識とニーズを抽出した。

(3) AYA 世代にある CCS の長期フォローアップのための看護師向け教材（支援ガイド）の作成

小児血液がんに関するガイドライン、小児がん治療後の長期フォローアップに関する支援ガイド、医学・看護学叢書、先行研究をもとに、研究班メンバーが成人診療科の看護師を対象とした、CCS 長期フォローアップ教材（支援ガイド）案を作成した。その後小児科医2名、小児がんを専門とする小児看護専門看護師2名、がん生殖医療医1名のエキスパートパネルによる妥当性評価を行い、加筆、修正を施した後に最終版を確定することとした。

(4) AYA 世代にある CCS への支援状況の実態調査と看護師向け教材（支援ガイド）の評価

全国456か所のがん診療連携拠点病院（令和5年4月現在）の成人診療科（血液内科・内分泌代謝科・産婦人科）に勤務する看護師を対象に、web 調査を実施した。調査内容は、基本属性（13項目）のほか、AYA 世代にある CCS のケアの経験（6項目）、CCS の移行期ケアの経験（15問）、CCS の不妊治療・出産に関わるケア経験（7項目）を尋ねた。また教材に対する評価については、説明のわかりやすさ（6問）、必要な情報量（7問）、教材に対する意見（2問）を尋ねた。

4. 研究成果

(1) AYA 世代にある CCS の長期フォローアップと移行期支援に関する文献レビュー

全データベースから70文献が抽出され、重複文献を除いた53文献について内容を確認し、英語、日本語以外の言語によるもの1件、書籍1件を除外した51文献をレビュー対象とした。

研究デザインは、コホート研究16文献、横断研究21文献（質問紙調査、インタビュー調査、診療録調査）、介入研究（RCT）1文献、総説6文献、解説5文献、尺度開発1文献、ガイドライン開発1文献であった。研究対象は、CCSを対象としたもの36文献、医療者を対象としたもの3文献、医療機関を対象としたもの1文献であった。

解説ではLTFUに関する総論・枠組みについて述べたものが主であり、総説は、造血細胞移植後の晩期障害等、特定の症状に特化したもの、ガイドラインのアドヒアランスに関する論文であった。特定の晩期障害に着目した論文は14文献で、その内容は心毒性、腎障害、性腺機能障害など様々であった（表1）。尺度開発として、Klassenら（2014）は、小児科から成人診療科へと移行するLTFUにおいて、CCSが障壁あるいは促進要素と捉える要素を測定する尺度を開発した。この尺度はCancer Worry（がんに対する不安、6項目）Self-Management Skills（セルフマネジメント能力、15項目）Expectations（成人診療科のケアへの期待、12項目）の3つの尺度で構成され、信頼性、妥当性が得られたことを示した。また、Santacroceら（2010）は、CCSとその親のLTFUにおける特徴として‘不確かさ（uncertainty）’に着目、不確かさに働きかける対面式LTFUプログラム（HEROS）と、HEROSに加え電話による対処スキルトレーニング（CST）を実施した群（HEROS+CST）を比較、CSTを付加することが臨床的に妥当であることを示した。CCSに対する教育ニーズや、どのようにLTFUケアを実施すべきかを、グランデッドセオリーアプローチを用いて質的に明らかにした研究（Mouw;2017）も見られた。米國小児がんグループ（COG）による長期フォローアップのためのガイドライン改訂版が2008年に策定されて以降、LTFUに関する調査研究が多数実施されていることが明示され、長期にわたりCCSのニーズを充足する多職種によるLTFUの必要性が示唆された。また本レビューにおいて看護師を対象とした先行研究が極めて少ないことも明らかとなり、LTFUにおける看護師の実践内容の明確化とCCSに対するケア体制の確立の必要性が示唆された。

表1 着目した晩期障害

着目した晩期障害	著者
1 眼関連	Whelan (2010)
2 心血管系	Kero (2014)
3 心毒性に焦点を当てた晩期合併症	van der Pal (2010)
4 腎障害	Okada (2016)
5 腎機能障害	Deborah (2008)
6 骨ミネラル欠損	Wasilewski (2008)
7 口腔・歯の合併症	Effinger (2014)
8 甲状腺がんの発症	Clement (2018)
9 輸血による鉄過剰症	Kathleen (2012)
10 男性の性腺機能障害	van Dorp (2013)
11 放射線治療後の脳卒中	van Dijk (2016)
12 放射線治療後の感音性難聴	Bass (2016)
13 骨髄内放射線治療と化学療法後の早期卵巣不全	Chemaitilly (2017)
14 造血細胞移植と化学療法と放射線治療後の内分泌系の晩期障害	Felicetti (2011)

(2) CCS 移行期ケアにおけるニーズ調査 - インタビュー調査

インタビューの対象は CCS の移行期ケアに関わった経験のある医療職 4 名(生殖医療専門医 2 名、内分泌代謝医 1 名、小児科看護師・がん化学療法看護認定看護師 1 名)であった。移行期ケアとして、特にホルモン療法に関連した治療について、生殖医療医と小児科看護師はひと月あたり 2-10 件と一定数いる一方、内分泌代謝医は 8 年間で数例程度と相違が大きかった。主として女性ホルモン、成長ホルモンを補充する療法がおこなわれていた。診療のきっかけは、二次性徴の発来が必要な時期(18-19 歳以降)に小児科から紹介される、月経不順による受診などであった。CCS に対するホルモン療法の重要性は、がんを発症した時期(年齢)により異なるが、二次性徴前の発症・治療であれば、二次性徴の発来が重要となり、初経後であれば月経の再開、骨量の獲得などを旨とし、とっていた。患者にとり日々の内服や貼付薬の使用などは身体的負担も大きい、それでも患者がよりよく生きていくために大切な治療であると捉えていた。CCS への教育的支援の内容として、ホルモン療法による体の変化、女性ホルモンの必要性、卵巣機能評価、注射の頻度、薬の量と種類の調節、注射の頻度などが挙げられた。他の医療職との連携について、小児科と婦人科さらに心療内科、精神科との連携や、看護師、栄養士などの多職種間の連携が課題として挙げられた。

(3) AYA 世代にある CCS 長期フォローアップのための看護師向け教材(支援ガイド)の作成

エキスパートパネルによる妥当性評価の結果、臨床で行われている治療内容に即した治療フローチャートを作成し、有害事象に関する記載、小児がん患者の看護の要点、さらに AYA 世代へと移行した CCS に対するケアの視点について大幅に加筆修正を行い、最終版としてエキスパートパネルの承認を得た。この結果、全 26 ページの看護師向け教材(支援ガイド)が完成した。

AYA世代にある小児がんサバイバーへの継続的な支援のために
一血癌がんに焦点をあてて

はじめに 01
1. 小児に多いがんとは 02
2. CCSの晩期合併症の特徴 07
3. フォローアップとケア 14
4. CCSの特徴 16
5. 成人診療科におけるCCSに対するケアの要点 22
6. 事例 24
リンパ腫・骨髄がん・サド 26

1. 小児に多いがんとは

1) 小児の血液がんの現状と概要
2) 造血系腫瘍と血液病
3) 造血系腫瘍の発生メカニズム

2. CCSの晩期合併症の特徴

1) 晩期合併症とは
2) 造血系腫瘍
3) 内分泌系腫瘍
4) 免疫系腫瘍
5) 神経系腫瘍
6) 骨髄腫

3. フォローアップとケア

1) フォローアップの目的
2) フォローアップの項目
3) フォローアップの頻度
4) フォローアップの場所

4. CCSの特徴

1) 発症段階
2) 経過と治療
3) 長期フォローアップ

5. 成人診療科におけるCCSに対するケアの要点

1) 自律/自立支援
2) 晩期合併症に対するアセスメントとケア
3) 先天性疾患を有する患者のケア

6. 事例

【事例】
Aさん 17歳 女性

1. 小児に多いがんとは

1) 小児の血液がんの現状と概要
2) 造血系腫瘍と血液病
3) 造血系腫瘍の発生メカニズム

2. CCSの晩期合併症の特徴

1) 晩期合併症とは
2) 造血系腫瘍
3) 内分泌系腫瘍
4) 免疫系腫瘍
5) 神経系腫瘍
6) 骨髄腫

3. フォローアップとケア

1) フォローアップの目的
2) フォローアップの項目
3) フォローアップの頻度
4) フォローアップの場所

4. CCSの特徴

1) 発症段階
2) 経過と治療
3) 長期フォローアップ

5. 成人診療科におけるCCSに対するケアの要点

1) 自律/自立支援
2) 晩期合併症に対するアセスメントとケア
3) 先天性疾患を有する患者のケア

6. 事例

【事例】
Aさん 17歳 女性

1. 小児に多いがんとは

1) 小児の血液がんの現状と概要
2) 造血系腫瘍と血液病
3) 造血系腫瘍の発生メカニズム

2. CCSの晩期合併症の特徴

1) 晩期合併症とは
2) 造血系腫瘍
3) 内分泌系腫瘍
4) 免疫系腫瘍
5) 神経系腫瘍
6) 骨髄腫

3. フォローアップとケア

1) フォローアップの目的
2) フォローアップの項目
3) フォローアップの頻度
4) フォローアップの場所

4. CCSの特徴

1) 発症段階
2) 経過と治療
3) 長期フォローアップ

5. 成人診療科におけるCCSに対するケアの要点

1) 自律/自立支援
2) 晩期合併症に対するアセスメントとケア
3) 先天性疾患を有する患者のケア

6. 事例

【事例】
Aさん 17歳 女性

(4) AYA 世代にある CCS への支援状況の実態調査と看護師向け支援ガイドの評価

AYA 世代にある CCS に対する支援状況の実態調査

調査対象は、全国 456 か所のがん診療連携拠点病院の成人診療科（血液内科・内分泌代謝科・産婦人科）に勤務する看護師とし、Web による質問紙調査を実施した。調査内容は、基本属性（13 項目）、AYA 世代にある CCS のケアの経験（6 項目）、CCS の移行期ケアの経験（15 問）、CCS の不妊治療・出産に関わるケア経験（7 項目）、小児がんサバイバーのトランジションの経験（15 問）、小児がんサバイバーの不妊治療・出産に関わるケア経験（7 項目）作成した支援ガイドの評価項目として、教材のわかりやすさ（6 問）、情報ニーズ（7 問）、教材に対する意見（2 問）とした。調査は 165 名の看護師からの回答を得た（回収率 17.7%）。対象者の概要を、表 1 に示す。

実態調査から、CCS のケアに携わったことのある看護師は、58 名（35.2%）であり、携わったケアの内容については、小児がん治療に起因するものが最も多く、46 名（79.3%）、小児がんとは関係のない疾患・症状へのケアが 13 名（22.4%）であった。CCS のケアで困ったことについては、「晩期障害についての知識がなかったこと」26 名（44.8%）、「小児がんに対する知識がなかったこと」22 名（37.9%）、「小児科との連携がなかったこと」15 名（25.9%）などがあげられた。

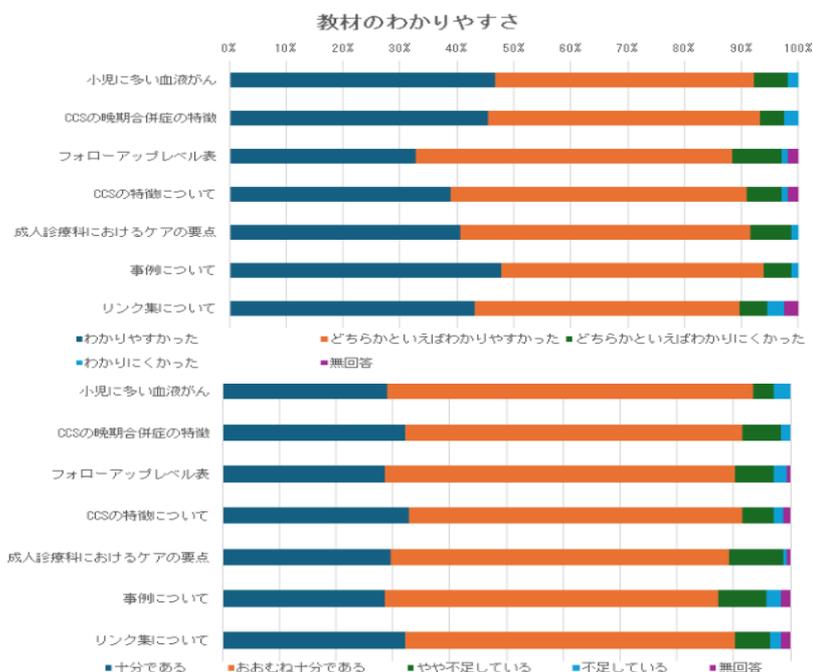
対象者の基本属性			
	人数	%	
性別	女性	160	97.0
	男性	3	1.8
	その他	2	1.2
勤務部署の主たる診療科	血液内科	81	49.1
	内分泌科	14	8.5
	産婦人科	31	18.8
	その他	39	23.6
	小児診療科の勤務経験	あり	34
AYA 世代にある CCS のケアの経験	ある	58	35.2
	ない	101	61.2
	わからない	6	3.6
		平均	SD
年齢（歳）		39.3	9.6
臨床経験年数		16.9	9.2
現部署経験年数		5.6	4.8
小児診療科の経験年数(n=32)		4.5	3.5

CCS の移行期ケアに関わったことがあると回答した看護師は、14 名（8.5%）であり、そのうち何らかの困難を感じたことが「ある」、「どちらかと言えばある」とした者は 10 名（71.4%）であった。小児科から成人診療科への移行において一定期間合同で見ていく体制については、141 名（85.4%）が「必要である」と回答したのに対し、小児科と成人診療科との連携ミーティングが「ある」と回答した者は 3 名（1.8%）、小児科の看護師との連携が「ある」と回答した者は 13 名（7.9%）であった。

た。成人診療科で働く看護師の AYA 世代にある CCS へのケアの実態として、移行期ケアだけではなく、CCS のケア自体に携わった経験が少ないという実態が明らかになった。ケアの際に困難だったこととして、晩期障害についての知識の不足、小児がんそのものについての知識不足などがあげられた。

AYA 世代にある CCS に対する看護師向け教材（支援ガイド）の評価

本研究班が作成した看護師向け教材（支援ガイド）評価として、教材の活用の可能性について、教材のわかりやすさ、教材の情報量、について尋ねた。その結果、教材活用の可能性については、「活用できそう」と回答したものが 68 名（41.2%）、「まあまあ活用できそう」と回答したものが 96 名（58.2%）であった。教材のわかりやすさと情報量に対する回答を、以下図に示した。教材のわかりやすさについては、どの項目も「わかりやすかった」、「どちらかといえばわかりやすかった」の回答が 88.5~94.0% であり、教材の情報量については、「十分である」、「おおむね十分である」の回答が 87.2~93.3% であった。



教材に対する意見として、95 名（57.6%）から回答が得られた。全体的に「わかりやすかった」、「見やすかった」という意見が多かったが、「文字が多い」、「事例がもう少し欲しかった」、「フォローアップレベルの指標が難しかった」などの意見も示された。また、事例については、「看護師の具体的な介入や声掛け、説明の内容なども知りたかった」や「具体的な継続内容を提示してほしい」などの意見も示された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 林 直子	4. 巻 23
2. 論文標題 Implementation Research ことはじめ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 聖路加看護学会誌	6. 最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34414/00015337	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 林 直子、小野 若菜子、小山田 恭子、松本 文奈、加藤木 真史、永瀬 能央	4. 巻 6
2. 論文標題 カリキュラム2015評価報告 - カリキュラム2011最終年度卒業生との比較から -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 聖路加国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 47-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34414/00000121	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鈴木 久美、府川 晃子、山内 栄子、林 直子	4. 巻 9
2. 論文標題 診断・治療期の再発乳がん患者への看護実践における課題 がん看護の専門看護師および認定看護師の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪医科大学看護学研究雑誌	6. 最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高橋 奈津子、林 直子、他	4. 巻 5
2. 論文標題 女性乳がん患者の妊孕性温存に関する意思決定支援における看護師の困難	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 聖路加国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 22-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34414/00013644	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 久美、林 直子、藤田 佐和、小笠 美春、樺澤 三奈子、他7名	4. 巻 31
2. 論文標題 日本におけるがん看護研究の優先性 2016年日本がん看護学会会員によるWeb調査 教育・研究活動委員会報告(平成27~28年度)	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 57-65
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.18906/jjscn.31_suzuki_20170411	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森 明子、樺澤 三奈子、松尾 七重、林 直子、中山 直子	4. 巻 31
2. 論文標題 女性がん患者のリプロダクティブヘルスに関する オンコロジナーズの学習と連携のニーズ 妊孕性温存療法に焦点を当てて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 n/a~
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.18906/jjscn.31_mori_20170831	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 久美、大畑 美里、林 直子、府川 晃子、大坂 和可子、池口 佳子、小松 浩子	4. 巻 32
2. 論文標題 乳がん早期発見のための乳房セルフケアを促す 教育プログラムの効果	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 12-22
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.18906/jjscn.32_suzuki_20171120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋 奈津子、林 直子	4. 巻 4
2. 論文標題 女性がんサバイバーの妊孕性温存に関する意思決定過程	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 聖路加国際大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.34414/00000083	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 久美, 山中 政子, 南口 陽子, 林 直子, 山内 栄子, 府川 晃子, 椎野 育恵, 津田 泰宏, 藤阪 保仁, 土井 智生, 泊 祐子	4. 巻 12
2. 論文標題 AYA世代を含む成人のがん啓発教育プログラムの内容とその成果 系統的文献レビュー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪医科大学看護研究雑誌	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Kumi, Yamanaka Masako, Minamiguchi Yoko, Hayashi Naoko, Yamauchi Eiko, Fukawa Akiko, Tsuda Yasuhiro, Fujisaka Yasuhiro, Doi Tomoki, Shiino Ikue, Tomari Yuko	4. 巻 12
2. 論文標題 Details of Cancer Education Programs for Adolescents and Young Adults and Their Effectiveness: A Scoping Review	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Adolescent and Young Adult Oncology	6. 最初と最後の頁 9-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/jayao.2021.0160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aso Sakiko, Hayashi Naoko, Sekimoto Go, Nakayama Naoko, Tamura Keiko, Yamamoto Chieko, Aoyama Maho, Morita Tatsuya, Kizawa Yoshiyuki, Tsuneto Satoru, Shima Yasuo, Miyashita Mitsunori	4. 巻 19
2. 論文標題 Association between temporary discharge from the inpatient palliative care unit and achievement of good death in end of life cancer patients: A nationwide survey of bereaved family members	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japan Journal of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jjns.12474	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sekimoto Go, Aso Sakiko, Hayashi Naoko, Tamura Keiko, Yamamoto Chieko, Aoyama Maho, Morita Tatsuya, Kizawa Yoshiyuki, Tsuneto Satoru, Shima Yasuo, Miyashita Mitsunori	4. 巻 9
2. 論文標題 Experience of the temporary discharge from the inpatient palliative care unit: A nationwide post-bereavement survey for end-of-life cancer patients	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing	6. 最初と最後の頁 100058 ~ 100058
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.apjon.2022.03.010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji Mikiko, Hayashi Naoko	4. 巻 10
2. 論文標題 An exploratory cross-sectional study of immune checkpoint inhibitors and immuno-related adverse events: Knowledge and influencing factors among Japanese oncology nurses	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing	6. 最初と最後の頁 100147 ~ 100147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.apjon.2022.100147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okimura Aiko, Hayashi Naoko	4. 巻 10
2. 論文標題 Relationships between bereaved families' decision-making regret about end-of-life care place for patients with cancer and relevant factors	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing	6. 最初と最後の頁 100167 ~ 100167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.apjon.2022.100167	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 直子、高橋 奈津子、鈴木 久美、中山 直子、府川 晃子	4. 巻 65
2. 論文標題 女性乳がん患者の妊孕性温存に関する意思決定支援の現状と課題 - 患者と医療者のインタビュー調査から -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 保健の科学	6. 最初と最後の頁 809-813
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林 直子、川崎 優子、藤田 佐和、渡邊 眞理、沖村 愛子、小笠 美春、鈴木 久美、雄西 智恵美、入澤 裕子、内田 恵、田代 眞理、遠藤 久美	4. 巻 38
2. 論文標題 日本におけるがん看護研究の優先性 - 2022年日本がん看護学会会員を対象とした調査 -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 n/a ~
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18906/jjscn.38_1_hayashi	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 小山 美樹、川崎 敬子、林 直子
2. 発表標題 A大病院の外来で経口抗がん薬治療を受ける高齢者の支援体制構築に向けたプロトコールの開発
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村 理加、林 直子
2. 発表標題 人工呼吸器離脱アセスメントプログラムJ-BWAPと患者アウトカムとの関連性の検討
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 沖村 愛子、林 直子、中山 直子
2. 発表標題 .終末期がん患者の療養場所選択に関する意思決定の関連要因と遺族が抱く後悔との関係
3. 学会等名 第24回聖路加看護学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾形 由貴子、林 直子
2. 発表標題 九州のがん診療連携拠点1施設に勤める全医療従事者に対する人生の最終段階における医療に関する意識調査の現状と課題
3. 学会等名 第24回聖路加看護学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林 直子、高橋 奈津子、中山 直子、森 明子、鈴木 久美、他3名
2. 発表標題 全国がん診療連携拠点病院で女性乳がん患者の診療に携わる医師を対象とした横断調査 妊孕性温存の意思決定に関わる看護職への要望に焦点をあてて
3. 学会等名 第24回聖路加看護学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中山 直子、林 直子、内田 千佳子
2. 発表標題 終末期がん患者を在宅で看取った遺族のGood Death に対する認識- 一事例の分析から
3. 学会等名 第24回聖路加看護学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kumi Suzuki, Akiko Fukawa, Eiko Yamauchi, Naoko Hayashi, Ikue Shiino, Ayako Shikata
2. 発表標題 Development of a nursing intervention program to improve the Sence of Coherence of recurrent breastcance patients receiving chemotherapy
3. 学会等名 4th Asian Oncology Nursing Society Conference (in Munbai, India) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 麻生咲子、林 直子、中山直子、宮下光令
2. 発表標題 ホスピス・緩和ケア病棟からの一時退院が遺族からみた患者のQOLに及ぼす影響とその関連要因
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤原 登茂、林 直子
2. 発表標題 乳がん患者の妊孕性温存に関する知識獲得を目的とした看護師向けe-learning教材の開発：パイロットスタディ
3. 学会等名 第34回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kumi Suzuki, Akiko Fukawa, Eiko Yamauchi, Naoko Hayashi, Ayako Shikata
2. 発表標題 Aspects of nursng practice with recurrent breast cancer patients in the diagnostic and therapeutic stages in Japan:Perspectives of certified nurse specialists and certified nurse of cancer nursing
3. 学会等名 ICCN in New Zealand (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林 直子、中山 直子、森 明子、鈴木 久美、高橋 奈津子、樺澤 美奈子、松本 文奈、池田 真紀子、高山 千春、藤原 登茂、逢阪 美里
2. 発表標題 小児がんサバイバーの長期フォローアップと移行期支援に関する文献レビュー
3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋 奈津子、林 直子、中山 直子、森 明子、鈴木 久美、松本 文奈、池田 真紀子、牧野 晃子
2. 発表標題 女性乳がん患者の妊孕性温存に関する意思決定支援における看護師の困難
3. 学会等名 第33回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Suzuki K., Yamauchi E., Hayashi N., Fukawa A.
2. 発表標題 Process of Enhancing Stress Coping Skills through the Illness Experience of Patients with Recurrent Breast Cancer
3. 学会等名 AONS(Asian Oncology Nursing Society) in Beiging (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高橋 奈津子、林 直子
2. 発表標題 乳がんサバイバーの妊孕性温存に関する意思決定過程における女性の生き方
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会各術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 林 直子、高橋 奈津子、中山 直子、森 明子、鈴木 久美、松本 文奈、池田 真紀子、牧野 晃子
2. 発表標題 女性乳がん患者の診療に携わる医師の妊孕性温存に関する知識・態度・実践の現状 全国がん診療連携拠点病院を対象とした横断調査
3. 学会等名 第8回 日本がん・生殖医療学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋 奈津子、林 直子、中山 直子、森 明子、鈴木 久美、松本 文奈、池田 真紀子、牧野 晃子
2. 発表標題 女性乳がん患者のケアに携わる看護師の妊孕性温存に関する知識・態度・学習ニーズの現状 全国がん診療連携拠点病院を対象とした横断調査
3. 学会等名 第8回 日本がん・生殖医療学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 林 直子
2. 発表標題 がん・生殖医療における看護職の役割
3. 学会等名 第8回 日本がん・生殖医療学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾形 由貴子、林 直子
2. 発表標題 がん患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの実装
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木 久美, 山中 政子, 南口 陽子, 林 直子, 山内 栄子, 府川 晃子, 椎野 育恵, 津田 泰宏, 藤阪 保仁, 土井 智生, 泊 祐子
2. 発表標題 .AYA世代を含む成人のがん啓発教育プログラムの内容とその成果：系統的文献レビュー
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 門脇緑、林 直子
2. 発表標題 がん患者とのEnd-of -life discussions における看護-がん看護専門看護師を対象として-
3. 学会等名 第24回聖路加看護学会学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 麻生 咲子、林 直子、中山 直子、宮下 光令
2. 発表標題 ホスピス・緩和ケア病棟からの一時退院が遺族からみた患者のQOLに及ぼす影響とその関連要因
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中野 真理子、瀨 道彩、林 直子
2. 発表標題 診断後早期からがん看護専門看護師が介入した進行膵臓がん患者への介入の現状と課題の分析（後方視的診療録調査）
3. 学会等名 第36回日本がん看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林 直子、高橋 奈津子、大川 恵、逢阪 美里、細田 志衣
2. 発表標題 女性乳がん患者の妊孕性温存に対する意思決定を支援する意思決定ガイド試案の作成
3. 学会等名 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 大川 恵、逢阪 美里、細田 志衣、林 直子、高橋 奈津子
2. 発表標題 乳がん患者の妊孕性温存療法選択のためのディジションエイドの活用を示す、医療者向けの支援アルゴリズムと手引書の作成
3. 学会等名 第13回日本がん・生殖医療学会学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中野 真理子、林 直子、加藤 俊介、瀧道 彩、高崎 祐介、水嶋 章郎、水嶋 しのぶ、永原 章仁、伊佐山 浩通、藤澤 聡郎、石井 重登
2. 発表標題 進行臓器がん患者に対する看護師主導の早期からの専門的緩和ケアプログラムの実装研究
3. 学会等名 第28回日本緩和医療学会学術集会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 鈴木 久美、林 直子、佐藤 まゆみ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 340
3. 書名 がん看護	

1. 著者名 石松 伸一、林 直子、鈴木 久美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 310
3. 書名 病態・治療論 [1] 病態・治療総論	

1. 著者名 佐藤 まゆみ、林 直子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 324
3. 書名 成人看護学	

1. 著者名 林 直子、鈴木 久美、酒井 郁子、梅田 恵	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 310
3. 書名 成人看護学 成人看護学概論（改訂第3版）	

1. 著者名 林 直子、佐藤 まゆみ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 434
3. 書名 成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護（改訂第3版）	

1. 著者名 佐藤 まゆみ、林 直子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 352
3. 書名 成人看護学 急性期看護II 救急看護・クリティカルケア（改訂第3版）	

1. 著者名 能登 洋、林 直子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 242
3. 書名 病態・治療論 [5] 内分泌・代謝疾患	

1. 著者名 野崎 真奈美、林 直子、佐藤 まゆみ、鈴木 久美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 408
3. 書名 成人看護学 成人看護技術（改訂第2版）	

1. 著者名 一般社団法人 日本癌治療学会	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金原出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 小児,思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン 2017年版	

1. 著者名 林直子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 照林社	5. 総ページ数 208
3. 書名 今はこうするケアの根拠	

1. 著者名 編集 林 直子、佐藤 まゆみ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 468
3. 書名 NiCE 成人看護学 急性期看護 I 改訂第4版	

1. 著者名 編集 佐藤 まゆみ、林 直子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 408
3. 書名 NiCE 成人看護学 急性期看護 改訂第4版	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 京子 (KOBAYASHI Kyoko) (30437446)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授 (32633)	
研究分担者	鈴木 久美 (SUZUKI Kumi) (60226503)	大阪医科薬科大学・看護学部・教授 (34401)	
研究分担者	森 明子 (MORI Akiko) (60255958)	湘南鎌倉医療大学・看護学部・教授 (32729)	
研究分担者	中山 直子 (NAKAYAMA Naoko) (50510244)	神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・准教授 (22702)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	真部 淳 (MANABE Atsushi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小澤 美和 (OZAWA Miwa)		
研究協力者	森 慎一郎 (MORI Shin-ichiro)		
研究協力者	山下 卓也 (YAMASHITA Takuya)		
研究協力者	秋谷 文 (AKITANI Fumi)		
研究協力者	石田 也寸志 (ISHIDA Yasushi)		
研究協力者	細川 恵子 (HOSOKAWA Keiko)		
研究協力者	金井 久子 (KANAI Hisako)		
研究協力者	逢阪 美里 (OSAKA Misato)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中村 希 (NAKAMURA Nozomi)		
研究協力者	前田 邦枝 (MAEDA Kunie)		
研究協力者	高橋 奈津子 (TAKAHASHI Natsuko)		
研究協力者	松本 文奈 (MATSUMOTO Ayana)		
研究協力者	牧野 晃子 (MAKINO Akiko)		
研究協力者	池田 真紀子 (IKEDA Makiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------